

(1) 2022年8月4日(木)1面 掲載

◆産大レクチャー ア・ラ・カルト<178>

観光の新しい価値 春日 俊雄

産大レクチャー ア・ラ・カルト <178>

日本の観光は近年、人々の価値観や志向の変化により旅行スタイルも個人、家族、グループに変わって、旅行が目的から趣味や自己実現の手段となり多様化している。

そして、今般のコロナ禍で時間が10年から15年先に進んだとも言われており、まさにいま「新しい観光」の入り口に立っている。

念を破って、従来の観光の領域を拡大・進化させている二つの事例を取り上げ、紹介したい。

観光の新しい価値

春日 俊雄

るお店である。柘植さんが好きなものを集めてしつらえた店内は、何とも居心地が良く、どの席からも海が眺められる。

の風景を眺めながら身体に優しい食べごこちでエネルギーチャージができるという「新しい価値」を創出している。

『阿部酒造』 市内安田で1804年 味を基調にした日本酒に挑戦している。

『Umicafe DO NA(ウミカフェドナ)』 柘植香織さんが営むカフェは市内宮川の海の傍(そば)に2年半をかけて手作りりで改修し、2012年にオープン。柏崎市民のほか新潟や上越など県外のファンも多く、足繁(しげ)く訪れている。

メニエーの「玄米ブレート」も愉(たの)しみの一つだ。 社会の目まぐるしい変化と日常の煩わしさをストレスから少し離れてリセットし、変わらない海

の創業。製造責任者の阿部裕太さんは、2015年に新たなブランド「あべシリーズ」を立ち上げ、全国日本酒人気ランキング(2022年7月19日時点・SAKETIME

また、酒を飲めない人も阿部酒造にきて欲しいと甘酒や米山トウキを活躍(い)かした酒蔵発のクラクラを8月初旬に販売するという。

阿部さんは、雑誌・酒蔵萬流の中で「酒蔵を柏崎の人の自慢となるようにして、県内外の人が柏崎を訪れるハブ的存在にしたい」と述べている。 酒蔵は食・文化に深く関わり、健康的に食べごとと共に愉しむ日本酒の進化は「新しい食文化の提案」と見ている。

これら二つの事例に共通することは①深い考えに基づくプロダクトアウト(提供者側の発想で作る)で行われていること②情報の発信が事業者の考え方、生き方、暮らし

調べ)で1位に輝いた。「これまでの常識に促されることなく自分が納得する酒造り」を貫き、米の旨味(うまみ)と酸味を基調にした日本酒に挑戦している。

方など「フラッグシップ型」の発信であること③活動が自分ごと、みんなごと、地域ごと、世の中ごとにつながる好循環になっていること④地域愛が強く、横のネットワークでつながっていること。等々である。

人口減少時代の地域社会を互いに支えるキーワードは地域内外の交流密度とネットワークだ。小さな観光で「新しい価値の創造」に向けて共に気張りたい。

(専任講師) 毎月1回掲載

(2) 2022年8月16日(火)2面 掲載

◆地域に学び地域をおこすー実践活動レポートー

3年ぶりににぎわい戻る 経済学部講師 権田 恭子

「新潟大学スズ」
地域に学び
地域をおこす

実践活動レポート

3年ぶりに
にぎわい戻る

春以降、少しずつだが着実に、地域ににぎわいや活気が戻って来ているように感じている。学生へのイベント参加のお誘いも今年度に入って急速に増え始めている。各種メディアでは「3年ぶりの開催」の見出しが目立つようになって来た。6月14日、16日、柏崎の大イベント「えんま市」も悲願の開催を果たすことができた。本学でもま

ちづくりのゼミを中心に3・4年生19人が出店。これまで蓄えていたエネルギーが一気に投入され、忘れられない3日間となった。産大ブースは地元の飲食店等が一堂に会する「柏崎うまいもん市」エリアにお邪魔させていただいた。産学官連携事業として取り組んで来た市内企業とのコラボ商品の販売やPR、手作りの「系引きくじ」等の子ども向けの企画を行った。着々るみを見るなど工夫を凝らした接客で会場を盛り

上げた。市内出身で3年生の池嶋菜央さんは、大学入学から半年間をオンライン授業で過ごした一人。えんま市に参加できたことを満足そうに振り返る。「子どもの頃からなじみ深いイベントに、初めて出店する側として参加した。出店を耳にした友人や知り合いが立ち寄ってくれたことがうれしかった。これからも地域の方々との交流を深め、柏崎を盛り上げていきたい」と意気込みを語った。ゼミ生たちは7月16日の「まちから夏まつり」にも出店し、ワークショップ等で多くの子どもたちと触れ合った。また秋には「たかだ竹あかり」開催も控えている。これ

まで不完全燃焼気味だったリアルな学生生活を取り戻すかのよう、積極的に人々との出会い、ふれあいの場に向いている。慌ただしいながらも、地域ににぎわいが蘇(よみがえり)つつあるこの

瞬間に立ち会っていることに日々、喜びを感じている。
経済学部講師・権田 恭子
(同大学地域連携センター)



(3) 2022年8月29日(月)2面 掲載

◆地域に学び地域をおこすー実践活動レポートー

柏崎リーダー塾×新潟産業大学

じよんのび村で夏祭り 産大企画メンバー・佐藤凧紗(2年)

「新潟産業大学」
地域に学ぶ
地域をおこす

実践活動レポート

柏崎リーダー塾×
新潟産業大学

じよんのび村で
夏祭り

市内高柳町のじよんのび村で今月6・7日、柏崎リーダー塾5期生チーム「しなぶす」と産大生が共同で企画した「和っしよーじよんのび夏祭り」が開催された。

6月に企画メンバーの顔合わせが行われ、その翌週から本格的にミーティングが始まった。最初は「夏祭り」としか決まっていなかったイベントがミーティングやじよんのび村での会議を経て内容が徐々に固まっていた。目玉の一つであるキッチンカーの手配ができない、2日目の縁日用の風鈴が集まらないといったトラブルもあったが、乗り越えて無事に開催す

実行委員会と鼓明楽のメンバー



ることができた。1日目はキッチンカーや太鼓集団「鼓明楽(こあら)」の演奏、夜はスライランタンが実施された。2日目のことも縁日には産大のゼミも出店。くじやふぶ豆の販売と共に産大生もスタッフとして

に参加し、イベントを盛り上げた。来場者は目標を超えた700人へのほり「和っしよーじよんのび夏祭り」は成功裏に終了することができた。

えない。だが、活気は増したはずだ。一つ一つの活動、一人一人の意識の変化が積み上がっていくことで柏崎はもっと盛り上がるだろう。

この下旬に行われた振り返りでは学生から「来年も開催するなら参加したい」「友人からよいイベントだと言われ、うれしかった」と前向きな言葉を聞くことができた。学生の柏崎への意識が変わるよい機会となったのではないだろうか。

私も今回の経験を通じて学んだことを地域に還元し、次の世代にも柏崎を盛り上げたいと思っ

てもらえるようにしたい。

産大企画メンバー・佐藤凧紗(2年)
(同大学地域連携センタ